

## 「香川大学における文理融合型研究プロジェクトとリサーチアドミニストレーター」

○永富太一、和田一葉(香川大学 社会連携・知的財産センター)

### 1. はじめに

香川大学では文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム(旧戦略展開プログラム)」の採択を受け、平成20年9月より学内の研究シーズの把握、地域ニーズの調査を行い、データベース化と見える化を推し進めてきた。さらにデータベースを活用したニーズオリエンティッドで組織横断的な研究プロジェクトを企画し、現在4つの文理融合型プロジェクトが進行している。プロジェクトの推進にあたり、企画や管理を行う役目をリサーチアドミニストレーター(以下 RA)が担っている。RAの役割は現在、国会等でも活発に議論されているところであるが、香川大学では平成20年度よりRAの役職を設け、独自に業務内容を確認し遂行してきた。

本稿では、香川大学における新たな取り組みとそれを支えるRAの役割について考察を行った。

### 2. 文理融合型研究プロジェクトの企画及び運営

これまで学部を越えた連携が成されにくい環境下にあった幣学において、大学等産学官連携自立化促進プログラムでは文理融合型研究プロジェクトの企画、管理、運営を業務計画の一環として行ってきた。

とりわけ社会貢献や地域還元につながる人文社会系の知と理系の技術を結集した研究プロジェクトの創出は地域の総合大学において大きな特徴付けとなることから、特色ある研究シーズの抽出、及び地域・社会ニーズ調査を行い、双方のマッチングによって4つの研究プロジェクトを発足させ、web上(図1)で管理を行っている。

#### 【4つの文理融合型研究プロジェクト】

・自殺対策事業(メンタルヘルス向上に関する研究プロジェクト)

連携機関: 香川県、医学部、教育学部、危機管理研究センター

・万引き防止対策事業

連携機関: 香川県警本部、教育学部、経済学部、工学部

・農商工連携懇談会

連携機関: 地域マネジメント研究科、農学部、工学部

・R1(ぶどう)ブランド研究会

連携機関: ワイン醸造メーカー、酒卸会社、菓子メーカー、四国 TLO、地域マネジメント研究科、農学部



図1. 研究プロジェクト管理 web 画面

### 3. リサーチアドミニストレーター(RA)の役割

RAはプロジェクトの企画から管理を円滑化させる為、研究者間や事務の間に立ち、その時々TPOに合わせて業務を幅広くこなすことが求められる。香川大学のRAの基本理念と主な業務内容は下記の通りである。

#### (基本理念)

- ・ニーズオリエンティッドな文理融合型新規プロジェクト研究の企画、推進
- ・組織横断的な情報の共有化と学内連携体制の構築
- ・競争的資金獲得支援と知的財産活動基盤の強化

#### (企画業務)

情報収集、研究プロジェクト企画、人選と協力要請、申請書案の作成支援、事業計画立案、システム開発、先

行文献調査、特許マップ作成・指導、セミナー開催、知財教育、情報の体系化と見える化、  
(管理業務)

情報管理、日程調整、議事録、物品請求、予算管理、進捗管理、特許管理、システム管理、技術調査等

### 3-1. ニーズオリエンティッドな文理融合型新規プロジェクト研究の企画、推進

全学の研究シーズをデータベース化すると同時に地域・社会ニーズ調査を行い、その中から総合大学として取り組むべき案件について適切な研究者を選出した。戦略展開プログラムでは、特に人文社会系の研究者のシーズの把握に力を入れている。データベースはニーズオリエンティッドなプロジェクトの企画立案に利用している。

### 3-2. 組織横断的な情報の共有化と学内連携体制の構築

学内連携ネットワークを構築し、組織横断的な学内連携体制を持続可能にする為の仕掛けを整備した。前述の4つのプロジェクト毎に情報共有の場を提供し、ネットワーク上で情報の授受や関連資料をストックすることを可能とした。

また、異分野連携を創出することで研究領域の拡大や異分野への理解を深めることをも狙っている。

さらに、キャンパス間にWEBを活用した遠隔会議システムを導入し、他学部や出先から会議や情報交換を可能にした。

### 3-3. 競争的資金獲得支援と知的財産活動基盤の強化

外部資金の申請に係わるコーディネート活動では、競争的資金獲得に意欲と理解のある一部の研究者のみが積極的に申請している背景から、前述の研究シーズデータベースから有望シーズを見つけ、これまで申請していなかった研究者へ積極的に申請を促し、申請書のチェック等のコーディネート業を経て、申請件数と採択数の増加に貢献している。

また、研究者への学内研究、共同研究、産学官連携活動支援と知財に関する理解醸成を図るため、特許マップ、先行文献調査の作成による研究支援活動も行い、研究領域の拡大、他分野への視野拡大、共同研究体制の構築に寄与している。また、学生への知財教育や特許マップの作成指導により、知財への関心、理解の醸成、研究テーマへの活用を行っている。

## 4. 考察

本プログラムでは文理融合型の研究プロジェクトを企画、管理するだけでなく、持続可能な研究支援体制を構築することが目的の一つである。

これは研究プロジェクトや共同研究がこれまで一定期間での計画や契約が切れると特徴ある研究であっても自然消滅し、どうしても維持、発展に繋がらないという背景があったためである。

RA は研究シーズと地域ニーズの中から、特に地域性、持続性、発展性が期待されるテーマを見つけ出し、研究プロジェクトを発足させた。

しかし、プロジェクトを進めることで浮き彫りになる研究者間の意識の違いやシステム改良の余地など、トライ&エラーを繰り返しながらより良いものに作り替えながら進んでいるのが現状である。

今後、適宜調整や計画の修正を行いながらも香川大学として特徴ある研究を一つでも多く芽吹かせ、根が張るよう現プロジェクトの維持、発展と新規プロジェクトの創出を目指していきたい。